

「区民と区長のタウンミーティング」に出された意見の反映状況

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月18日	子育て家庭にとって、児童館の開館時間が9時や10時では遅い。もっと早い時間から開館してほしい。	児童館の開館時間については、今後利用者のニーズを踏まえて検討していく。
5月18日	児童館の運営について、委託などで経費がかかることを考慮し、ボランティアの協力を得ることで、開館日時の拡充をしてほしい。 特に、乳幼児子育て世代にとって、児童館は駆け込み場所として重要である。また、保育園に通う家庭が増加していることから、児童館が休日の遊び場としてのニーズが高まっている。	令和7年度以降、委託化する乳幼児機能強化型児童館については週7日、19時まで開館することとしている。基幹型児童館についても、令和7年度から月曜開館するとともに、水・金曜の週2日19時まで開館時間を延長する。利用者のニーズや職員体制を踏まえ、今後さらに拡充を検討していく。
5月18日	児童館の飲食スペースの利用は、衛生面に問題が残らないようなルールを定めてほしい。	児童館での飲食については、ルールも含めて利用者の声を聴きながら検討していく。
5月18日	児童館に通っている子どもには、家庭で手作りの食事をできていない子が多数いる。そのため、児童館で子どもと一緒にごはんやお菓子を作り、手作りの食べ物を食べる機会を与えて欲しい。	子ども食堂など地域の子育て支援団体等と協力しながら、手作りの食べ物を食べる機会の提供を図っていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月18日	「中高生用のスペース」など、特定の世代に限定した場所や設備を作るのではなく、誰もが利用しやすい場所にしてほしい。	0歳から18歳までの子どもが利用できる施設として、全ての年代の子どもたちが居心地のよい居場所になるよう工夫していく。
5月18日	児童館の利用ルールは、大人の事情で決めるのではなく、当事者である子どもの意見を聴いて、決めてほしい。	各児童館において、子ども会議の開催や日常的に子どもの声を聴き、ルールについて話し合っているところである。今後も当事者である子どもの声を踏まえてルールの見直しを行っていく。
5月18日	中野区の児童館全体で同じルールになるようにしてほしい。ある児童館はできることが、他の児童館はできないとなっては、利用しづらくなってしまう。	児童館により施設の状況等が異なることから、全館統一ルールにするのは難しい。各館において子どもの声を聴きながら、ニーズを踏まえたルールの見直しを図っていく。
5月18日	子どもに関する情報を収集、発信できる場が欲しい。特に個人が発信できるような場がないので、設けて欲しい。	子育てに関する情報や地域でのイベントなどは、児童館へのチラシの配架やポスターの掲示などにより発信していきたい。
5月18日	児童館が遊ぶ場所としての機能だけでなく、学ぶことのできる場所としても機能してほしい。例えば、小学生が喋りながら勉強できる場所があると良い。図書館などで、小学生が喋らないで勉強するのは難しい。	施設の広さや部屋の数などに制限があるため、小学生が勉強できるスペースを十分に確保するのが難しい施設もあるが、可能な限りニーズに応じた運営ができるよう工夫していきたい。
5月18日	児童館が不登校の子どもにとっての居場所の役割を担ってほしい。	不登校の子どもにとって、児童館は居場所の選択肢の1つとなっている。今後も子どもが抱える悩みや課題を早期発見し、関係機関等へ繋ぐなど必要な支援を行っていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月18日	児童館がおもちゃを購入するには予算がかかるため、手作りのおもちゃを作る講座をしてほしい。子どもたちが一緒におもちゃをつくること自体が文化になるのではないか。また、おもちゃを作るのを教える講師役として、近隣の子育て広場と連携して行ってほしい。	近隣の子育てひろばや、地域のボランティアの協力を得ながら、おもちゃを作る講座の実施などを検討していく。
5月18日	児童館ごとにおもちゃや設備等で強みや特色を出して、それを周知してほしい。マンガや本がたくさんあったり、自由に絵が描ける児童館、特定のおもちゃが充実している児童館などがあれば、親や子どもが好きな所を選んで行ける。	施設面やおもちゃ等を含め、各児童館の特色や強みについて情報発信できるよう工夫していきたい。
5月18日	不要になったおもちゃの寄贈を積極的に受け入れて欲しい。不要になったおもちゃの交換会を開催しても面白いと思う。	児童館において、不要になったおもちゃ等の寄付を受け付けている。
5月18日	中高生が気軽に音楽活動できるような場所が中野区には少ない。区民活動センターに音楽室があっても、利用しやすいルールになっていない。児童館でも楽器演奏などができるよう、スタジオを整備して欲しい。	区民活動センター集会室については、検討を進めている新たな施設予約管理システムの導入を契機に、可能な限り施設利用ルールを標準化し、利用者にわかりやすい利用ルールとなるよう検討を進めていく。また、既存の児童館に新しく音楽スタジオを整備することはできないが、建替を行う若宮児童館には音楽スタジオを整備する予定である。なお、南中野児童館については音楽スタジオが整備されている。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月18日	区民活動センターや児童館がどんな場所で、何ができるかを子どもや子育て家庭が知らない。広報をより積極的にしてほしい。	区民活動センターについては、区ホームページやSNS、新しい予約システム等の媒体を活用し、施設利用者へ区有施設について積極的に広報していく。 児童館については、区のホームページや各児童館のおたより等で周知しているところだが、さらにわかりやすく情報発信できるように工夫していきたい。
5月18日	閉園した区立保育園などを子どもが利用できるような遊び場・居場所にしてほしい。	用途廃止された施設については、行政需要等を勘案して跡地の活用を検討する。また、閉園した区立保育園等の跡地活用については、いただいたご要望や地域の課題を踏まえながら保育施設の移転・整備用地としての活用等、様々な視点から今後検討していく。
5月18日	区内には一時的な預かり保育ができる施設が少なく、病児になるともっと少ない。児童館を含めて子どもを一時的に預かる施設を増やし、病児の預かりも増やしていただきたい。	一時保育については令和6年度に、病児保育については令和7年度に各1施設を増設する。
5月18日	児童館と学童クラブが併設していると、幅広い世代が児童館を利用しづらい。学童クラブと児童館の施設を分け、それぞれ独立させてほしい。	学童クラブの需要見込みを踏まえた上で、原則としてキッズ・プラザ併設学童クラブの整備が完了し次第、同じ小学校区内の児童館内学童クラブは順次縮小・廃止していく。
5月18日 7月13日	児童館で外遊び用の大型遊具を充実させてほしい。	遊園の広さに制限もあるため、遊具の整備については検討していきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
5月18日 7月13日	児童館によっては、子ども年齢に合わないおもちゃが多いことがある。定期的にリニューアルしてもらうほか、児童館利用者の意見を反映しておもちゃを調達するような仕組みがあると良い。また、児童館のおもちゃが全体的に古いため、もっと新しいおもちゃを充実させてほしい。	令和7年度は、各年代の子どもたちから意見を聴き、意見を踏まえておもちゃ等が購入できるよう検討している。
5月18日 7月13日	地域内で、同日に同じ趣旨のイベントが行われていることがある。児童館同士で連携し情報を共有することで、日程など調整し、参加者をとりあうことがないようできるとよい。	各児童館でのイベントについては、利用者の声を聴きながらニーズに応じた日時での実施を検討していきたい。
5月18日 7月13日	子どもたちは児童館でもスマートフォンやゲームをやりたいがるが、長時間使用してしまうため、ルール作りが難しい。	児童館でのスマートフォンやゲームの利用については、ルールも含めて子どもの声を聴きながら検討していく。
5月18日 7月13日	区内に授乳ができたり、調乳するためのお湯を提供してくれる場所が少ないので、これからも増やしてほしい。また、区役所1階の授乳室で使えるお湯の温度がわかるようにしてほしい。	子育て応援とうきょうパスポート事業を活用し、子育て家庭向けのお湯の提供などのサービスを取り扱う店舗や子ども連れで入りやすい店舗の充実を図るとともに、そうした店舗の情報を広く子育て家庭に向けて発信していく。現在区役所に設置している設備は、95度のお湯を給湯する設備で、温度調整の機能がない設備となっている。ご不便をおかけするが、適切な温度になるまで冷ましてからご利用いただきたい。また、児童館への調乳用温水器の設置を検討している。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日	児童館職員の負担を増やすことなく、日曜日や祝日の開館を実現してほしい。	直営の児童館については、職員課と協議しながら適正な人員の配置に努めていく。乳幼児機能強化型児童館については、民間事業者へ委託することにより日曜日の開館を行う。
7月13日	日曜日に児童館を利用したい人は多いと思う。特に雨が降ってしまうと、子どもたちの遊べる場所が少なくなってしまうため、乳幼児親子のみを対象としているふらっとサンデーは、利用対象を限定しない事業にしてほしい。	令和7年度委託化する乳幼児機能強化型児童館について、日曜日も通常開館し、小学生以上の子どもも利用可能とするため、直営児童館におけるふらっとサンデーについては、引き続き乳幼児親子のみを対象として実施する。
7月13日	児童館の開館時間の延長は、中高生世代だけでなく、夕飯時まで子どもを遊ばせたい乳幼児の親にとってもありがたい。	利用者のニーズを踏まえ、令和7年度以降委託化する乳幼児機能強化型児童館については全日19時まで開館する。基幹型児童館については、令和7年度は水・金曜の週2日、19時まで開館することとしている。
7月13日	午前と午後で乳幼児と小学生以上の子どもがホールを使う時間を分けられており、乳幼児は午後に児童館を利用できない。どの世代も時間の制約を受けることなく、児童館を利用できるようにしてほしい。	施設の広さや部屋の数の問題から、どの年代の子どもも時間の制約なく利用できるようにするのは難しいところである。限られた施設の中で最大限子どものニーズを踏まえた運営ができるよう、子どもの声を聴きながら利用方法を工夫していきたい。
7月13日	初めて児童館に来た時、利用の仕方が分からなかった。どんな施設で何をしたい場所なのか、周知するほか、児童館でも個別に案内をしてほしい。	児童館の利用方法については、区ホームページや各児童館のおたより等で周知しているところだが、初めての利用者でも分かりやすい案内となるよう工夫していきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日	児童館は地域とのつながりを大事にしてほしい。運営を民間事業者へ委託するにあたっては、区民が信頼できるような事業者を選定してほしい。	民間事業者への委託にあたっては、他自治体での実績や運営状況も踏まえ、事業者の選定を行う。また、これまでと同様に地域とのつながりを大切に運営を行えるよう十分な引継ぎ等を行っていく。
7月13日	心配な子どもを児童館が発見し、関係する機関と情報共有する仕組みがあるといい。	児童館では、現在も福祉的課題のある子ども等について、関係機関との連携を行っているところであるが、令和7年度以降は基幹型児童館において、よりソーシャルワーク機能を強化していく。
7月13日	日頃から身近な児童館で気軽に育児相談ができるようにしてほしい。また、定期的に助産師さんや歯科衛生士さん呼び、相談会を開催するのもいいのではないかな。	現在、児童館において歯科衛生士・栄養士による、各種講座を実施している。また、令和7年度から、基幹型児童館に子育てに関する専門員を配置する予定である。助産師や歯科衛生士などの専門職による相談会の実施については、今後すこやか福祉センターと調整していきたい。
7月13日	子どもが外で遊んだり、飲み物をこぼしたりすると、児童館で着替えをする場面がある。トイレにお着替えボードが設置されていると、便利だと思う。	お着替えボード（フィッティングボード）の設置については今後検討していく。
7月13日	室内でも体を動かして遊べるように、ホールにアスレチックを整備したり、サーキット遊びができるようにしてほしい。	室内でも体を動かせる遊びができるよう今後検討していく。
7月13日	子どもたちが児童館で自由に過ごせるよう、漫画コーナーや勉強スペースを作りたい。	読書や勉強ができるスペースがある児童館が多数であるが、そうでない児童館については学習スペースを確保するよう運用等を検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
7月13日	野菜収穫などのこれまで各児童館で行われてきた楽しいイベントは、児童館運営を民間委託しても開催を続けてほしい。	民間事業者へ委託後も、利用者の声を聴きながらニーズに応じたイベントを実施していく。
7月13日	小学校における休日の校庭一般開放では、大人たちよりも子どもたちが優先して利用できるよう運用してほしい。	区立小学校校庭球技開放は、小学生を構成員とするスポーツ活動を行う団体のみが利用可能である。引き続き、子どもたちが優先して利用できるよう運用していく。
8月20日	初産婦向けの講座は充実している一方、BP2プログラムなどの経産婦向け講座が少ないと感じるので、充実させてほしい。	経産婦が参加できる講座等については、今後増やしていく方向で検討している。
8月20日	パパを対象にした講座が充実してきてはいるが、まだまだ回数が少なく、対象者が限られてしまう。開催回数を増やしてほしい。	父親向けの講座の拡充について引き続き検討していく。
8月20日	家事・育児の支援が、子どもが1歳になると利用できなくなってしまう。1歳以降も支援が受けられるように制度を改善してほしい。	需要と供給のバランスを鑑み、現在の利用時間、利用期間を設定している。委託事業者の拡充を行うとともに、利用期間・利用時間についても段階的な引き上げについて検討を行っていく。
8月20日	家事支援事業、産後ケア施設などの存在や利用条件を知らず、利用したいときに利用できなかった。周知に力を入れて、より多くの人に利用してもらった方がいい。	かんがる一面接での丁寧な説明や、区報や区ホームページなどを活用し各事業の周知を行っていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
8月20日	産後ケア施設の利用や家事支援などの産後サービスの利用手続きのために、窓口へ行かなければならない。電子申請やスマートフォンアプリを活用して、簡単に手続きできるようにしてほしい。	現在、一部の事業はlogoフォームによる申し込みを可能とするなど利便性の向上を図っている。 また、現在国は「母子保健DXの推進」の方向性を示しており、各種手続きについて、簡素化、効率化が図れるものと考えている。 一方で、それが整うまでの間も、手続きの簡素化などの工夫を行っていきたい。
8月20日	妊婦はつわりがとても辛く、ケアを必要とする時期。特に上の子がいると、つわりで体調が優れなくても世話をしなくてはならない。つわりの時期における母親のサポートを充実させてほしい。	現在も妊娠中に、体調が悪く家事を行うことに支障があり、家族などから支援が受けられない方については産前家事支援事業を実施している。妊娠届出時や、かんがる一面接の際に事業について案内を行っていく。
8月20日	子どもが離乳食期に入ると、育児の負担が増してくる。子どもが満7ヵ月を迎えると産後のデイケア利用出来なくなってしまうが、それ以降もケアを必要とする家庭はたくさんある。利用期間をもう少し長くしてほしい。	国のガイドラインにおいて産後1年までの時期が目安とされているため、中野区では産後1歳以降の事業については、実施をしていない。また乳児の発達状況や、その時に必要な支援内容を鑑み、産後ケア3種類の対象月齢を区分している。
8月20日	産後ケアの事業は最初に利用する際のハードルが高いように感じる。気軽に利用できるよう、案内や広報を工夫してほしい。	区報や区ホームページなどを活用し、より産後ケア事業を身近に感じて貰えるよう工夫をしていく。
8月20日	かんがるーブックを配布してもらうタイミングが遅く、事業を利用するタイミングを逸してしまうことがある。妊娠届を出したときなど、早めの時期に渡してほしい。	令和7年度より、より早く利用者に情報が伝わるように妊娠届出時にお渡しをする。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
8月20日	<p>中野はファミリー向けの住宅が少なく、あっても家賃が高い。物価も高騰していることから、区内で3人以上の子どもを育てるのに不安を感じる。子育て世帯向けの住宅供給を増やすほか、子どもの人数に合わせて、住宅手当を出すなど経済的な援助があると、安心して定住しやすくなる。</p>	<p>子育て世帯向けの住宅を供給・誘導するため、「中野区集合住宅の建築及び管理に関する条例」に基づき、一定規模以上の集合住宅におけるファミリータイプの住戸の供給を促進している。 また、良好な子育て環境を形成するために、公営住宅等の建替にあたっては、子育て支援施設の整備誘導等を行っている。 民間賃貸住宅においては、子育て世帯を含む住宅確保要配慮者を拒まない、セーフティネット住宅の普及促進を行っている。また、円滑な入居を促進するため、居住支援協議会の運営を支援し、住宅部門と福祉部門とが連携し、民間賃貸住宅のオーナーと入居者双方に対する情報提供や支援を行うなど、総合的な取り組みを行っている。そのため、経済的な援助の実施は考えていない。</p>
8月20日	<p>産後にもらえる子育て応援事業で、カタログギフト使うのをやめてほしい。もらえるのはうれしいが、商品を選び、申請する手続きに時間がかかるうえ、欲しい物が無い。続けるとしても商品のラインナップを見直してほしい。または、電動自転車等の購入費に対して還付してもらえたり、おむつの定期便のような仕組みがあるといい。</p>	<p>子育て応援ギフトについては、東京都が商品のラインナップを決定しているため、区として商品のラインナップの見直しを行うことはできない。</p>
8月20日	<p>保育料や一時預かりの利用料が高く、経済的に負担感が強いので、軽減してほしい。</p>	<p>第2子以降で実施している保育料無償化について東京都は、令和7年9月から第1子にも適用する方針を明らかにしており、区としても実施に向けて準備を進めていく。 また、一時保育の利用料については、今後検討していく。</p>
8月20日	<p>休日保育を利用できる施設が1園しかない。日曜や祝日に気兼ねなく子どもを預けられるようにしてほしい。</p>	<p>休日保育の園数については課題であると認識している。事業の拡充に向けた検討を行っていく。</p>

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
8月20日	病児保育を行っている施設が1か所しかなく、場所が遠い。施設を増やし、利用しやすくしてほしい。	病児保育については令和7年度に1施設を増設する。
8月20日	保育園の情報発信が少なく、行事や普段の様子が分からず、情報を集めづらい。	区ホームページに掲載する「中野区の保育施設一覧」を通じて、各園の施設・取組情報を発信している。また、「区公式LINEによる幼稚園・保育施設情報検索サービス」を開始したところなので、併せてご活用いただきたい。
8月20日	区内に子ども服や、子ども用品などを買えるお店が少ないため、区外まで買いに行かなければならず、とても不便。積極的に誘致してほしい。	中野四丁目新北口駅前地区における市街地再開発事業については、区として施行予定者の事業計画見直し提案は採用しない、施行予定者と協議の継続は行わない方針とした。 一方で、今後の中野駅新北口駅前エリア再整備の検討においても、拠点施設に必要な機能のひとつとして、子育て世帯向け商業施設の導入や将来のニーズやトレンドに応じたテナント誘致を誘導していく。 また、区内出店や創業を支援するため、子育て世帯の利用を想定した店舗の整備にかかる経費を補助しており、そうした取組を通じて、区内出店や創業を支援、促していく。
8月20日	子育て支援関係の施設を中野区のホームページで調べても、1ページずつ確認しなくてはならず、ひとつひとつ確認するのが手間に感じる。一度に確認できるようになると良い。	中野区子育てサイト「おひるね」において、目的別・年齢別に子ども関係の施設をまとめて掲載している。今後も、さらに見やすく、探しやすいホームページとなるよう工夫していく。
8月20日	子育てひろばの利用時間が短く感じる。朝も夕方も、もう少し長く、子どもと遊べる場所にしたい。	子育てひろばの開設時間については、児童館の開館時間とあわせて乳幼児親子のニーズを踏まえて検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
8月20日	住所によってすこやか福祉センターの担当区域が決められているが、実際には周辺の交通事情的に別のすこやかの方が通いやすいことがある。任意で選べるようにしてほしい。	すこやか福祉センター(以下、センター)は、各担当圏域における地域特性を活用した相談支援を行っており、圏域人口に応じた事業の実施や職員の配置を行っている。そのため、母子健康手帳の交付や難病医療費等助成制度の申請手続き等は、圏域外のセンターも利用できるが、その後の相談が必要となった場合、圏域センターの職員が担当する。 なお、センターが主催する健康講座等で、圏域を問わず参加できるものもある。
8月20日	中野坂上、中野新橋、新中野エリアから中野区役所までのアクセスが悪いので、その区間を循環するコミュニティバスを整備してほしい。	路線バスは、運転者不足等により減便や廃止が生じている状況であり、路線を新設することは難しい。こうした社会情勢等を考慮しつつ、運行の最適化を図り、路線バスネットワークの維持についてバス事業者との調整に努めていく。
8月20日	赤ちゃんを連れて公園で遊んでいると、小学生のボール遊びと時間・場所が重なることがあり、危険を感じる瞬間がある。乳幼児と就学児でゾーニングをするなど、お互いに利用しやすい場所にしてほしい。	公園利用者と周辺住民が理解し合える柔軟なルールが理想である。公園の再整備にあわせて、区民が参加できるワークショップ等の開催を視野に、適切なルールの決め方を検討していく。また、ルールの遵守やマナーの向上を呼び掛け、安全で快適な公園の維持に努めていく。
8月20日	中野駅及び東中野駅の東口はエレベーターがない。ベビーカーを使っているととても不便なので、早く設置してほしい。	中野駅の既存駅舎は、築90年以上の構造物のため、エレベーターの設置が困難である。このため、JR東日本は、中野駅西側南北通路・橋上駅舎等事業で、駅のホームからのエレベーターを設置することとしており、当該エレベーターの供用開始は、令和8年末を予定しているため、今しばらくお待ちいただきたい。 また、東中野駅東口のバリアフリー化については、まちの課題の解消・改善と魅力あるまちへの更新に向けたまちづくりの取組の中で、鉄道事業者とも協議し、検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
10月23日	地域に知り合いがいない外国人にとって、一人で地域参加するハードルが高いように感じる。参加の仕方の紹介や、一緒に参加する外国人をつなげてくれるような仕組みがあるといい。	参加の仕方の工夫も含め、外国人にとって参加しやすい地域参加の機会の創出に努めていきたい。
10月23日	いつ、どこで、どんなイベントが行われているか分からない。外国人も情報を受け取りやすいように、SNSを活用して様々な手段で情報を発信して欲しい。	現在区では、XやLINEといったSNSのほか、区ホームページなどでイベント情報を発信している。今後も引き続き、各種SNS等を活用し、外国の方をはじめ、すべての方にわかりやすく、伝わりやすい情報発信を行う。また、地域の自治会での外国人との交流イベントに区も協力する。町会や自治会と連携をした外国人の地域参加のあり方について検討していく。
10月23日	イベントのチラシや情報を見ても、実際の様子が分からないと参加しづらい。イベントの様子が分かるような写真や動画を使ったり、参加要項に「外国人の参加も歓迎」などの案内があると、参加しやすい。	イベント情報を発信する際は、誰もが気軽に参加しやすくなるよう、動画や写真を効果的に活用している。区ホームページ・SNS、区役所内のサイネージを活用し、今後も引き続き様々な手段で情報を発信していく。
10月23日	地域参加に興味があっても、自発的に参加する外国人は少ない。町会などの地域住民から外国人に参加を促してもらったり、行事に参加したい外国人と、外国人と交流したい地域の人々がマッチングするような仕組みがあるといいのでは。	東京都が令和元年度及び令和5年度に実施した「地域活動に関する検討会《町会・自治会における多文化共生の推進について》」の議事録などを参考に、外国人住民と町会との接点の強化について検討していく。また、令和7年2月には区も協力し、地域の自治会で外国人との交流イベントを実施し、自治会から外国人の参加を促した。町会や自治会と連携をした外国人の地域参加のあり方について、引き続き検討していく。
10月23日	日本人と交流しながら、日本の料理を習ったり、世界の料理を教えることができる料理教室のような行事が定期的にあると、良い文化交流になる。	中野区国際交流協会において世界の家庭料理講習会を実施しており、交流の機会となっている。こうした事業の情報を発信していきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
10月23日	中野区はサブカルチャーの文化が浸透しているので、これをテーマにしたイベントや交流ができる場があると良い。	アニメをはじめとするサブカルチャーに関連するイベントの実施に当たり、外国人も含め、より参加しやすいイベントにしていきたい。
10月23日	日本語学校に通っている人も、日本語教室のような場で学校や職場以外の様々な世代の人と学びや交流をしたい。日本語教室をもっと色んな人が参加できる開かれた場にしてほしい。また、単発の交流会が多く、参加しても一度話ただけで終わってしまうことが多い。より深い関係を持てるように、同じ年代や同じ趣味をもつ人と定期的に交流することのできる場が欲しい。	中野区国際交流協会において外国人と日本人が日本語で交流を行う「にほんご国際交流サロン」を定期的実施している。こうした事業の情報を発信するとともに、日本語での学びや交流の場の創出に努めていきたい。
10月23日	対面での講座やイベントのほか、オンラインで、ゆっくりと地域の方々などと交流する機会がほしい。	さまざまな交流機会の創出に当たり、オンラインでの交流の有効性について研究していきたい。
10月23日	初めて日本に来た時、多少日本語を話せても、手続きのため区役所に電話するのはかなり抵抗感があった。メールやチャットボットなど、電話以外の気軽な情報収集や連絡の手段を充実させてほしい。	現在区では、気軽に問い合わせができる手段としてAIチャットボットの導入を準備しているところである。英語・中国語・韓国語・ネパール語・ベトナム語・ミャンマー語(ビルマ語)・タガログ語(フィリピン語)にも対応できる予定であり、日本語以外の区民からのニーズも満たすよう進めていく。
10月23日	食事のマナーや事故にあったときの対応など、日本で当たり前なことや文化を知る機会が少ない。行政の手続き以外の日本での生活について、学ぶ機会があるといい。	事故にあったときの対応など、日々の生活に関することについては、「外国人のためのなかの生活ガイドブック」等で周知している。また、中野区国際交流協会において「夕涼み会」を実施しており、日本文化を体験する機会となっている。

開催月日	区 民 の 意 見 (趣 旨)	反 映 状 況 (区 の 考 え 方)
10月23日	病院やおすすめの飲食店、行事など、外国人向けに中野区を紹介するようなガイドマップやアプリがあると、まちに出たり地域に参加するきっかけになる。	区で発行するガイドマップ等については、外国人向けに多言語化を行っているものも多い。引き続き情報発信における多言語対応を充実していきたい。
12月19日	本人認証システムの活用やオンライン・キャッシュレス決済の機能は評価している。 本格稼働の開始時期を早めてほしい。	対象施設の追加や、様々なルールの変更等に伴い、地域にしっかりと説明をしながら新システムに移行をしていきたい。
12月19日	区民活動センターの運営ルールを標準化し、公表してほしい。 また、運営委員会も色々な方が参加できるような工夫をし、公開して運営をしてほしい。	区民活動センター運営委員会は、地縁による団体の連合組織から推薦されたものを中核として組織されており、委員の構成や施設の利用ルールについては、地域の状況に応じて、各運営委員会において規約などにより定められているところである。 現在は、各区民活動センター毎に利用ルールが定められているが、検討を進めている新たな施設予約システムの導入に合わせ、利用ルールの標準化についても検討を進めている。 また、地域においては、様々な公益的活動団体が生まれており、そのような新たな団体の意見を運営委員会に反映させることが、運営委員会の活性化、ひいては地域活動の持続につながると考えている。このことから、委員構成については適宜見直しを図っていき、固定化を防ぐような体制づくりを検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	経済的な理由に関わらず、体験に参加できるような事業を実施してほしい。	これまでも中野区立小学校に通う第4～6学年を対象として「海での体験事業」を経済的な理由によることなく参加可能な事業（参加料負担あり（当年度就学援助受給認定世帯は減額あり））として実施しているが、これとは別に、令和7年度予算においては経済的な理由により体験や経験の機会が少なくなりやすい家庭の子どもを対象とした事業（参加料負担なし）を実施予定である。引き続き、家庭の経済状況によることなく、子どもが豊かな経験を得る機会の提供に取り組んでいく。 また、子どもが自由にやりたいことができる遊びを実現し、多様な交流や体験を得られる地域の居場所として、区立江古田の森公園内に常設プレイパークを開設する予定である。
12月19日	25人クラスの検討など、教員の能力に合わせて適正なクラスの人数を設定してほしい。 また、不登校の生徒の対応をする巡回職員の配置をしてほしい。	1学級の人数は東京都教育委員会で定められているため、上限を変更することはできないが、教員を支える仕組みづくりや人員配置について、今後も充実させていく。 中学校に設置している校内別室を小学校においても全校に設置するために、小学校を巡回する人員を配置することを検討している。
12月19日	インクルーシブ教育に力をいれてほしい	境界知能や発達障害等の児童生徒の特性には個人差があり、内容も様々であるため、各学校において必要な支援を検討し、必要に応じて学習生活支援シート等を作成している。多様な学びを支援するための取組については、児童・生徒の状況を確認のうえ、必要な支援を行っていく。
12月19日	不登校対策では、委託に任せるのではなく、職員と業者が協力して取り組んでほしい	民間事業者等の専門的な支援を活用しながら、児童・生徒一人ひとりに合わせた学びの機会を確保させるとともに安心して居られる場所となるよう取組を充実させていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	中野中学校に開設している不登校のお子さん向けのNクラスを、別の学校でも開設してほしい	区内の不登校対策の成果や課題を一体的に捉えて整理し、他校でのチャレンジクラスの開設についても検討していく。
12月19日	不登校にならないように事前のサポートに力をいれ、不登校を生まない学校を目指してほしい。また不登校の生徒には、不登校特例校の誘致など、子どもの主体性を育むような政策を考えてほしい。	子どもを主語とした学校づくりや、学校・学級の居心地や教員と児童・生徒の信頼関係の向上、学ぶ意欲を育む授業・教育活動づくりを通して、不登校を生まないための魅力ある学校づくりを進めていく。また、「学びの多様化学校」の設置については、他区市の事例の視察を行っており、今後さらに研究を続けていく。
12月19日	地域学校運営協議会は地域に開かれた形で開催してほしい。構成委員は公募の方やフリースクールの方など、様々な方が参加できるようにしてほしい。また、職員の負担にならないように考慮してほしい。	これまで地域学校運営協議会の委員は、学校を運営する立場である学校長が学校運営に資する人物について推薦することにより選出しており、7年度以降に各校に配置する学校運営協議会についても同様に学校長の推薦により選出する予定である。また、各校に配置することに伴い、地域に開かれた協議会となるよう、区ホームページなどを通じて協議内容等を発信する予定である。
12月19日	子どもが部活動に参加しやすいように、補助金の増額や外部の介入などを検討してほしい。	生徒や保護者、教員の意向を確認しながら、学校部活動や行政主導地域クラブ活動の在り方を検討していく。
12月19日	乳幼児機能強化型の児童館を中心に、外の児童遊園を使って乳幼児向けの外遊び事業を実施してほしい。また、児童館で一時保育を実施してほしい。	乳幼児機能強化型児童館については、隣接公園の活用も含めて運営を行うこととしている。 児童館における一時保育については、令和6年9月末をもって休止した。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	教職員の負担を増やさないように考慮した上で、安心して気軽に子どもを預けられるような環境を整備してほしい。	「幼稚園における多様な他者との関わりの機会の創出事業」については、幼稚園で3歳未満の子供を預かっていただく関係で保育士資格を持つ職員の配置が必要なことから、今回の事業に対する事業費の補助金には職員の雇用費用を含めることができるよう検討しており、現状の職員への負担をできるだけ増やさないように考慮している。
12月19日	物価高騰により、区の施設の改修や修繕をするに多くの費用がかかる状況にあるため、慎重に行ってほしい。	民間保育施設（自己所有物件）の大規模修繕にかかる補助については、物価高騰の動向を考慮しながら適切かつ適正に補助を実施していく。
12月19日	病児保育事業の拡充にあたって、施設の拡大だけでなく、対象月齢の幅も広げてほしい。また、看護師の配置など安心して預けられる環境を整えてほしい。	病児保育施設においては、看護師及び保育士を配置することとしている。対象月齢の拡大については、安全面なども踏まえ今後検討していく。
12月19日	物価高騰により、区の施設の改修や修繕をするに多くの費用がかかる状況にあるため、慎重に行ってほしい。	区立保育園・幼稚園の改築等については、物価高騰の動向を考慮しながら適切かつ適正に実施していく。
12月19日	不妊治療への助成を拡大してほしい。また、里親支援事業も合わせて実施してほしい。	令和6年度現在、不妊治療への助成については不妊検査および一般不妊治療に対する助成と、特定不妊治療とあわせて実施される先進医療に対する助成を実施している。今後も、国の制度変更等を踏まえ、妊娠を望む方への支援として有効な施策について検討していく。 また、里親支援については、さらなる里親の開拓、里親の養育力の向上及び里親委託の促進を行うため、現状の里親支援事業業務委託を一つの機関のもと普及啓発から認定・登録にかかるインタークの実施、里親の状況に応じた研修等を行う里親養育包括支援（フォスタリング）に拡充する。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	妊娠や出産、子育てに関する情報が収集しづらい。区民が情報を収集しやすいよう、発信方法など周知の工夫をしてほしい。	区報や区ホームページ、かんがる一面接などを活用し、必要な情報を周知していく。
12月19日	プレパークの遊び場の近くに、水道設備を整備してほしい。	子どもたちの自由にやりたいことができる遊びを実現し、多様な交流や体験を得られる地域の居場所として、令和7年度に江古田の森公園内への常設プレパーク開設を予定している。常設プレパークでは、利用者の手洗いや遊びに利用することを目的とした水道設備の設置を予定している。
12月19日	上鷲宮以外にも施設の拡大してほしい。子ども向けの居場所を拡充することで、小1の壁の対策にもなり、子どもの安全にも寄与すると思う。	キッズ・プラザについては、学校施設の改築に合わせ、全小学校に設置することとしている。
12月19日	中高生の居場所事業を、児童館や区民活動センター、区役所1階など様々な場所で開催してほしい。中学生、高校生など年齢に合わせて居られる時間を長くすると思う。また、自習室を設け、学習指導員の配置をしてほしい。運営にあたっては中高生の運営委員を公募し、中高生の意見を取り入れて運営してほしい。	令和7年度から、乳幼児機能強化型児童館は毎日(週7日)19時まで開館、基幹型児童館については週2日19時まで開館する。児童館によっては学習スペースを設置しているところもあるが、施設状況により、十分な環境を整えることが難しい児童館もある。中高生年代の利用者の声を聴きながら、さらに運営内容の充実を図っていきたい。また、令和7年度には中高生年代向けの居場所事業を拡充し、区有施設等を活用した居場所事業の実施を予定している。
12月19日	北部すこやか福祉センターにエレベーターがないため、乳幼児親子や、多胎児が利用しづらい。エレベーターの設置を検討してほしい。	北部すこやか福祉センターについては、誰もが使いやすい新たな施設を整備すべく、検討を進めている。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	区の職員が介護の体験をすることで、アイデアを出してほしい。	介護サービス事業所連絡会と、介護サービス事業所研修の共催や、介護業務未経験者を対象とした入門的研修及びおしごと相談会、介護の魅力発信イベント等を協力実施するとともに、定期的に情報提供や意見交換等を行っており、現場の意見等を聞きながら取り組んでいる。
12月19日	介護士と被介護者の信頼関係が重要であると思う。信頼関係を作れるような働きをおこなってほしい。	介護サービス事業所の職員を対象として、職層・職層別に応じた研修を行っており、認知症ケアやコミュニケーションスキル等もテーマとして実施し、サービスの質の向上や職員の育成支援を行っている。
12月19日	健幸ポイントを活用した健康づくり促進のための実証事業を行う際は、民間の医療機関と連携の上進めてほしい。 また、各健康保険組合が実施している施策と二重になってしまわないか懸念がある。	実証事業の実施にあたっては、必要に応じて民間の医療機関との連携を検討していきたい。 また、健康無関心層の参加を促進するよう工夫することで、他のサービスとの差別化を図っていきたい。
12月19日	前期高齢者や中期高齢者向けの予防も充実させてほしい。また、周知に力を入れてほしい。	高齢者の保健事業は自立した生活がおくれる高齢者の増加を目指しており、フレイル予防や介護予防を主な目的としている。前期高齢者、中期高齢者に対する予防についても、高齢者施策を担当する部署と連携していきたいと考えている。 また、事業の周知についても、さらに力を入れていきたいと考えている。
12月19日	聴力検診を実施した後のフォローについても充実させてほしい。	令和7年度から区民健診として実施する「聴力健診」は、自分では気づきにくい加齢に伴う難聴等の早期発見を目的としている。「聴力健診」後、耳鼻咽喉科での受診を勧められた場合、その際は診療行為となるため、現在フォローについては実施する予定はない。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	中野本郷小学校の建て替え整備期間中に運行している、代替校舎へのスクールバスの運用は必要最低限の経費で実施してほしい。	運行の安全性に配慮した上で、競争入札により事業者を決定するなど費用を抑える形で実施している。
12月19日	鷺宮駅の踏切の影響で、鷺の杜小学校での児童滞留が問題になっている。鷺宮駅の踏切について、高架の建設や短時間でも開けられるようにするなど、踏切をなくすことも含めて検討してほしい。	西武新宿線の野方駅～井荻駅間については、踏切の除却に向けて鉄道の連続立体交差化計画について検討を進めている。今後も引き続き、計画の早期具体化に向けて取り組んでいく。 また、鷺ノ宮の踏切については歩道橋設置に向け西武鉄道や鷺の杜小学校と調整を行ってきたところであり、設置に向け庁内関係部署も含め、調整を密に行っていく。
12月19日	子育て支援活動への助成は別枠にしてほしい	行政主導で立ち上がり、かつ公益性が高い地縁に基づく団体への安定的な助成を目指していきたい。また、子育て支援活動については、今後よりよい制度となるよう内容を検討していく。
12月19日	安心して認可保育園を利用できるよう、調査・指導などを行ってほしい	保育園、または区民の方からの情報をもとに、聞き取り調査を行っている。その中で子供の命や安全にかかわること、不適切保育と疑われることについては特別指導検査を行い直接職員からのヒアリングや資料提出を求め調査を行っている。調査の結果は園長をはじめ事業者に伝え、改善報告書の提出を求めている。
12月19日	区としても闇バイトへの対策に力をいれてほしい	若者たちへの啓発については、警察とともにキャンペーン等やデジタルサイネージで啓発を行っており引き続き実施していく。警察が犯罪実行者の募集(いわゆる闇バイト)へ応募した者に対して相談するように呼びかけており、区も若者相談窓口で相談があった際に警察と連携して、警察が相談者を保護する取組に協力していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月19日	現在、学校で体調が悪くなった児童がいた場合、保護者が迎えに行くという運用をしているが、共働きの世帯だと負担が大きい。行政的な支援を検討してほしい	行政的な支援の可能性について研究していく。
12月19日	区役所に貸し出しのバギーを用意してほしい。自転車で来庁した時にまだ歩けない子どもとの移動が不便である。	現在バギーの貸し出しは行っていないが、今後の利用状況を見極め必要と判断した場合は、利用者が不便にならないような対応策を検討していく。
12月19日	区の事業で一時保育を実施する際、会議室での預かりは危険なので専用の保育室を作ってほしい。また、障害を持った子どもを一時保育で受け入れる場合、ヘルパーや看護師が見れる体制を整えてほしい。	区役所の部屋数には限りがあるため、専用の保育室を設けることはできないが、保育を実施する際には所管が責任を持って、乳幼児用のマット等を設置するほか、安全の点検など必要な措置を行うこととしている。障害を持ったお子さんの一時保育については、今後検討していきたい。
12月19日	各種申請にあたって、紙を印刷することが多い。ペーパーレスへの取組を進めてほしい。	区民が区役所の窓口等に行くことなくオンラインで各種手続・申請等を行える「行かない窓口」の取組を進めており、ペーパーレスにも対応したオンライン手続を順次拡充している。区民の利便性向上のため、今後も「行かない窓口」の推進に取り組んでいく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	23区内で中野区だけ男女共同参画センターの施設がない。 SNS相談開設の前段として、男女共同参画センターの拠点施設を作ってほしい。	男女共同参画に関する区民・団体の活動拠点として、情報収集や交流等ができる場所が求められている現状を踏まえ、現在区役所内にある男女共同参画センターについて、その機能を拡大し、庁舎外に移転する方向で検討を進めている。
12月20日	ユニバーサルデザインの整備にあたっては、機能性も重要視してほしい。	ユニバーサルデザインの整備にあたっては、誰にとっても利用しやすい区有施設のため、機能性にも配慮していく。
12月20日	日本語教室では、日本語を学ぶだけでなく日本で暮らす上でのマナーも一緒に学べると良い。また、予定利用者数や、こういった効果が期待できるのか公表してほしい。	日本の生活や文化に触れながら日本語を学べる内容にしていきたい。教室は2期実施し、各期20名程度を定員とすることを考えている。また、受講者に対して、生活に必要な最低限の日本語の習得を支援するとともに、区の外国人相談窓口等の多文化共生施策を紹介することで、生活の支援につなげることができると考えている。
12月20日	文化施設の改修工事にあたっては、計画を区民にしっかり周知した上で、包括的な維持管理を行ってほしい。また、改修工事によって区民活動が活性化されると良い。	改修工事に当たってはスケジュール等の計画を確実に周知するとともに、施設の維持管理を適切に行っていく。また、改修工事によって文化施設機能の維持・充実を図っていく。
12月20日	子育て家庭の経済的な格差が、教育格差、体験格差と広がっていくのではないか。 経済的な格差の解消が急務であるように感じる。	低所得の子育て世帯を対象とした給付金など、これまでも経済的な支援を進めてきたところであるが、今後も経済的な支援や、家庭の経済状況に依存することなく体験や学習の機会を得るための支援について検討を進めていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	区内の大学などと協働し、学生の作品を活用してプロモーションを推進することで、若手人材の発掘、育成につながると思う。若者の意見を取り入れて、実施してほしい。 また、アニメコンテンツによるシティプロモーションを推進するにあたって、方向性やコンセプトを明確にしてほしい。	区内大学、学生とは連携を進めていく考えである。 方向性やコンセプトを示した上で、アニメコンテンツによるシティプロモーションを推進していく。
12月20日	区では人材不足が深刻化しているため対策してほしい	令和6年度より区内企業者の人材確保を支援するため、人材確保総合支援事業補助を実施しており、令和7年度も引き続き実施する。また、区内企業者と就労希望者の人材マッチングイベントについても引き続き行っていく。
12月20日	伴走型中小企業経営支援の構築にあたって、個人経営等の店への支援も行ってほしい。 個人経営のお店への支援がないと、商店街が寂れてしまう原因になる。	伴走型中小企業経営支援は個人経営の個店も対象とする予定であり、中小企業者の経営力強化に向け、補助制度を含め包括的に支援を行ってきたい。
12月20日	工事を実施する事業者は区内業者を優先的に活用してほしい	工事発注にあたっては、区内業者限定の競争入札を実施するなど、引き続き区内事業者の受注機会の確保を図っていく。
12月20日	区で発行している商品券をナカペイにチャージできるようにしてほしい。 また、他アプリとの連携や、使用できる店舗の拡充など、利用方法を広げてほしい。	令和7年度から健康増進活動に対するポイント付与や、他アプリとの連動ができるよう準備を進めている。また、加盟店舗についても引き続き増やしていけるよう努めていく。 区内で発行されている商品券をナカペイにチャージできるようにする件については、商品券発行団体とも協議の上、検討を進めていきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	既存のデジタル通貨にはない、ナカペイならではのメリットを提示してほしい。 また、ナカペイのアプリの動作が不安定なことがあるので、改善してほしい。	令和7年度から、健康増進活動に対するポイント付与やイベント参加のインセンティブとして、ナカペイを活用することを予定している。また、その他にも利用者の皆様の意見を反映していきながら、ナカペイならではのメリットを付加していきたい。 アプリの動作については、通信環境によって動作が不安定になる場合がある。快適にナカペイを利用できるように、引き続き改善を続けていく。
12月20日	中野サンプラザの跡地利用について、区民の声を聞き、区としての考えを示した上で計画を進めてほしい。	本市街地再開発事業については、区として施行予定者の事業計画見直し提案は採用しない、施行予定者と協議の継続は行わない方針とした。今後、改めて、中野駅新北口駅前エリア再整備の検討を進めることとなるが、必要に応じて区民との意見交換会等の実施等も検討していきたい。
12月20日	路上喫煙への対策をしっかりと行ってほしい	路上喫煙禁止地区は「中野区吸い殻、空き缶等の散乱及び歩行喫煙の防止等に関する条例」に基づき中野駅周辺に設定しているが、路上喫煙禁止地区の指定範囲拡大について検討している。 また、喫煙マナーの意識向上を図るために、区内全域において地域の町会・自治会や商店会、区内のたばこ販売業者と協同して、喫煙マナーについての啓発活動や美化清掃活動の実施、街路灯等および路面への注意喚起のためのステッカーの貼付などを実施している。引き続き、周知徹底に努めたい。
12月20日	中野駅周辺などの特定の地域だけでなく、鷺宮地域など別の地域の再開発にも力をいれてほしい	中野駅周辺地区以外では、現在、新井薬師前駅周辺地区及び沼袋駅周辺地区において、新たなにぎわいの創出に向けた施策として、市街地再開発事業等の共同化に取り組んでいる。 鷺宮地域については現時点で再開発は予定されていないが、今後、地域住民の意見を聞きながらまちづくりの具体化に向けて取り組んでいく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	囲町地区での再開発をやめてほしい	建築工事をはじめ事業期間中は周辺にご負担をおかけするが、当地区の市街地再開発事業は権利者の方々との合意形成により不燃化、耐震化、良質な住宅の供給により災害に強いまちづくりを進めるものである。あわせて補助221号線や中野駅周辺との歩行者回遊動線の確保など、ゆとりある都市空間を整備するものとして、中野区は事業完了まで支援を行う考えである。
12月20日	中野駅周辺の再開発にあたって、投資した税金を回収できるだけの経済効果が見込めるのか。	本市街地再開発事業については、区として施行予定者の事業計画見直し提案は採用しない、施行予定者と協議の継続は行わない方針とした。今後、改めて、中野駅新北口駅前エリア再整備の検討を進めることとなる。
12月20日	中野サンプラザ跡地の再開発にあたって、住宅は必要なのではないか。	本市街地再開発事業については、区として施行予定者の事業計画見直し提案は採用しない、施行予定者と協議の継続は行わない方針とした。今後、改めて、中野駅新北口駅前エリア再整備の検討を進めることとなる。中野駅新北口駅前エリア再整備事業計画(令和2年1月策定)で示すコンセプトの一つである、昼間人口(通勤・通学者等)、夜間人口(居住者等)、交流人口(来街者等)のバランスのとれた用途構成を目指して、引き続きまちづくりを誘導していく。
12月20日	中野区発注の工事を公契約条例の対象とし、従事する労働者の権利をしっかりと守ってほしい。	公契約条例の対象となることにより発生する報告書提出義務等の事業者負担等を考慮すると、一定程度の線引きは必要なものと考えている。また、公契約条例の周知に関して、区ホームページや、事業者が事業所に掲示する周知文に加え、従事者向けに作成した周知カードにより、適切な周知を行うことで、労働者の権利を引き続き守っていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	中野駅周辺のまちづくりをする際には、駐輪場や駐車場、バス停の整備をしっかりと行ってほしい。また、中野通りの歩道の幅を広げてほしい。	中野駅周辺まちづくりにあたり、区では「中野駅地区整備基本計画」を策定し、適切な自動車・自転車駐車場の整備及び駅前広場でのバス乗降場の確保の考え方を位置づけている。これに基づき個別計画を定め、都市計画を決定し、必要な施設を確保することとしている。 中野通りは東京都道であるが、中野二丁目では地区計画において壁面の位置の制限を定めることで、歩道空間の拡張を進めることとしているほか、面的なまちづくりの中で歩道状空地定め、中野通りの歩道空間の確保を進めている。
12月20日	避難者のプライバシーも大切だが、シェルターの整備など命を守るための防災が重要であると思う。	シェルターの整備については、他自治体の事例等を踏まえ、研究していく。
12月20日	区の北部の避難所は、古い施設が多いため避難者のプライバシーを守れないのではないかと。	全ての避難所にプライバシー確保を目的として間仕切りテントを備蓄している。
12月20日	不燃化建築物へ建替を行っても火事になることがあるのではないかと。	不燃建築物の建替え促進は火災を防ぐものではなく、地区内の延焼危険性を減じていく取組である。そのため、日頃からの火災が発生しないように、地域住民の皆さん自身も注意し合っていく取組も重要である。
12月20日	避難道路を整備するにあたって、補償をしっかりと行ってほしい	防災まちづくりを進めるにあたっては、避難道路の危険性や重要度を考慮して、拡幅整備に向けた道路の整備の緊急性や位置づけ等を考慮し、道路用地の買収のあり方等を検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	東中野駅周辺の開発は以前より着手しているのにも関わらず、まだ重点事業として扱われている。他のエリアの開発にも力をいれてほしい。 また、商店街が寂れないように支援を行ってほしい。	東中野駅東口周辺のまちづくりは、まちの課題の解消・改善と、魅力あるまちへの更新に向けて、鉄道事業者と協議しながら、バリアフリー化の検討を進めている。 他エリアのまちづくりについては、事業中のまちづくりの進捗状況や、地域からのニーズ等を考慮しながら検討していく。 また、商店街が行うイベント事業や、街路灯の維持管理に対する支援等として、必要な補助金・助成金を交付することにより、商店街の魅力を高め、地域経済の活性化を図っていく。
12月20日	開かずの踏切の問題もあるため、西武線の野方以西の高架化を早く実施してほしい。	西武新宿線野方以西の鉄道の立体交差化計画の構造形式については、区としては高架構造が優位と考えているが、現時点において構造形式は決まっていない。今後も引き続き、構造形式にとらわれず、連続立体交差化計画の早期具体化に向けて取り組んでいく。
12月20日	高架下は子どもの遊び場にするなどの活用を検討してほしい	鉄道上部空間の活用については、区民意向調査等でいただいた意見を踏まえ、鉄道上部空間活用方針をまとめていく。また、鉄道上部空間は鉄道事業用地であることから、東京都や鉄道事業者と調整を図りながら検討を進めていく。
12月20日	西武新宿線の野方以西で地下化を進めてほしい。 また、工事をする際は不可の少ない単線シールド工法を採用してほしい。	西武新宿線野方以西の鉄道の立体交差化計画の構造形式については、区としては高架構造が優位と考えているが、現時点において構造形式は決まっていない。今後も引き続き、構造形式にとらわれず、連続立体交差化計画の早期具体化に向けて取り組んでいく。
12月20日	歩きたくなるまちづくりの推進にあたって、空き家の活用を検討してほしい。 また、バス停などにベンチの設置をすすめて欲しい。	空き家の活用にあたっては、空家等の実態把握をすすめ、空家等対策基本計画改定を今後行っていく。また、十分な歩道幅員が確保できる場所や民間空地等を含む公共的な空間活用により、バス停なども含め気軽に腰かけて休憩できるようなスペースの確保を推進していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	視覚障害者のために点字に変換する作業を行っている団体があるが、高齢化や指導者の不足のために活動が止まっているところもある。区から活動の支援を行ってほしい。	障害者及びその家族等を主たる構成員とする団体に、障害者の社会的交流の促進と、自主的活動を援助することを目的として、中野区社会福祉会館5階(障害者社会活動センター)を活動の場として提供している。利用の要件を満たせば、点訳を行うことが可能である。現在、団体の活動の一環として点訳を実施している団体も存在しているため、活動の場としてぜひ活用いただきたい。 また、指定管理者制度を導入している障害者福祉会館では、指定管理業務の一環として、点訳ボランティア育成のための点字教室を継続して開催しており、点訳ボランティアの育成を推進している。
12月20日	中杉通りの電柱の地下化を早急に進めてほしい	中杉通りは東京都が所管であるため、ご要望があったことをお伝えする。区道については、中野区無電柱化推進計画に基づき、無電柱化を進めていく。
12月20日	緑を残しつつ区の公園の拡張整備を進めてほしい。また、拡張するだけでなく、商業施設も併設してほしい。利用者の意見を聞く機会を設け、意見を取り入れながら平和の森公園の整備の計画を進めてほしい。	中野区は緑地が少ないため、公園の拡張整備は有効なことだと考えている。利用者の意見を取り入れながら、整備を進めていく。 賑わい創出が求められる大規模公園では、民間活力を活用した整備も検討していく。
12月20日	公園のトイレを機能性を備えた上で、安心して使えるような改修を行ってほしい。	公園トイレの更新は、「中野区立公園における移動円滑化の基準に関する条例施行規則」に基づき、車椅子等対応トイレ(ユニバーサルトイレ)に対応したトイレに更新することを優先的、計画的に行っている。 再整備公園では、子ども用トイレの設置を予定している。今後も、多様な利用者のニーズに配慮した公園トイレづくりを進めていく。
12月20日	現状、緑が豊かな公園がすくない。駐車場の整備など機能性を備えつつ、憩える公園を目指してほしい。	中野区公園再整備計画の考えに基づき、ワークショップ等により利用者の意見を取り入れながら、子どもから高齢者までが楽しめる、時代やニーズの変化に対応した魅力ある公園づくりを目指していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	バスの停留所の間隔が行きと帰りで違うので、改善してほしい。	地域における勉強会や利用者アンケートの意見、実証運行の実績を分析・検証したうえで、ルートや停留所等の運行計画の改善に努めていく。
12月20日	環境に配慮しつつ、公共交通サービスの充実化を図って欲しい。	既存の公共交通の維持や利用環境の向上を目指し、様々な取り組みを進めるとともに、環境に配慮したモビリティ等について研究していく。
12月20日	区内に自転車の駐輪場を増やしてほしい。	放置自転車の状況や既存自転車駐車場の利用状況を踏まえ、自転車駐車場の整備を検討していく。
12月20日	高齢者が住む住宅では、庭や周囲の木々が手入れされておらず荒れていることが多い。そのため、近隣住民が掃除を手伝っていることがよくある。この状況を改善するために区から支援してほしい。	民地の樹木が、区が管理している道路上にせり出し通行の妨げになっている等の場合には、区が樹木の所有者に対して剪定等管理を行うよう指導している。
12月20日	空き家の有効活用計画を立てて実施してほしい。区と民間が協力して空き家を有効活用できる環境を整えてほしい。	空家等の実態把握をすすめ、空家等対策基本計画改定を今後行っていく。空家等の利活用のあり方も含め検討を進めていきたい。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	住居への補助金や、公営住宅の増設など、住みやすい環境を整えてほしい。 また、建て替えのシュミレーションを委託するのではなく、職員が知識をつけて区で実施してほしい。	区営住宅及び福祉住宅は、入居者が入れ替わる際に壁紙や襖の張替、水回り等の必要な修繕とクリーニングを行っている。また、年次計画による修繕により住宅を長期的に利用可能な状態に保全し良好な住環境を提供している。 公営住宅等長寿命化計画は、予防保全的観点から修繕や改善計画を定め、住宅の長寿命化により更新コストを削減・平準化し、長期的に安全かつ良質に提供するために策定するもので、専門的かつ精微な分析が必要な基礎データの収集及び整理等を委託し、委託した成果物をもとに区が計画を具現化するものである。
12月20日	地球にやさしいライフスタイルを実施すると、ナカペイのポイントが得られるようにしてほしい。また、エコロジカルフットプリントを評価基準に採用してほしい。	環境配慮行動等に対する「ナカペイ」のポイント付与については、関係所管と協議しながら検討していく。 なお、ライフスタイルの実践評価と点数化の仕組みの検討については、国や都の動向を見据え、研究していく。
12月20日	再生可能エネルギーのPPAの利用を推進してほしい	令和6年6月に作成した中野区脱炭素ロードマップの内容を踏まえ、今後さらに再生可能エネルギーの活用を推進する仕組みを検討する。 具体策として、区民、事業者に対して再生可能エネルギー比率の高い電気契約への切替について情報提供を行うとともに、東京都が進める「みんなでいっしょに自然の電気」キャンペーン等を周知し、参加を促すことで、再生可能エネルギー電力の利用拡大を図る。
12月20日	区に転入してきた外国人向けにゴミ分別の講習を実施してほしい。 受講した外国人に特典を用意するなど、インセンティブがあるとよい。	地域等からの要望により、外国人向けにも資源とごみの分け方・出し方の出前講座を実施している。 外国人が資源やごみの分別がわかるよう外国語版のアプリなどを運営しており、今後も伝わりやすい方法を検討していく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	ゴミの重量削減のために、生ごみ乾燥機を各家庭への普及、または、購入の補助を検討してほしい。	生ごみ処理機については、商品のあっせん事業を実施している。今後ともごみ減量の取組が区民全体に根付くよう啓発していく。
12月20日	キャッシュレス対応レジの導入によって、どのような効果があるのか。費用対効果を踏まえて、実施してほしい。	本庁舎の戸籍住民課の窓口ではキャッシュレス決済率が30%を超えており、キャッシュレス決済に対する需要は高く、現金支払いに比べ、支払いに要する時間が短縮できている。また、つり銭準備においても効率化が図られている。地域事務所にキャッシュレス決済対応レジを導入することによりコストは増加するが、支払い方法の選択肢が広がるとともに、手元に現金がなくても支払いができるようになるため、来所者の利便性が高まると考えている。
12月20日	SDGsの推進にあたって、区民と話し合う場を設けた上で進めてほしい。	SDGsの推進については、区民向けSDGsイベントの実施や、なかのSDGsパートナー登録制度を実施することで、SDGsの普及・啓発活動を行っている。SDGsの17番目のゴールである「パートナーシップで目標を達成しよう」の取組の1つとして、区民と話し合う場を設けてSDGsを進めていくことも検討していきたい。
12月20日	緑化率ではなく樹幹被覆率を指標として、緑化の推進を進めてほしい。	みどりの保全及び創出の推進のための成果指標として、これまで「緑被率」及び「みどり率」を採用してきており、今後も経年の変化を確認していく必要があるため、本指標は継続していく考えである。一方、「樹冠被覆率」は、一般的にはヒートアイランド対策の目標とされることがあり、成果指標として設定することについては研究していく。
12月20日	区役所職員にもDX推進計画の策定に向けた意識調査を実施し、公表してほしい。	DX推進計画の策定に向けては、区民等だけでなく職員の意識も調査し、計画に反映させていく。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	紙たばこと電子たばこの喫煙できるスペースを分離してほしい。	路上喫煙禁止地区に指定している中野駅周辺においては、次のとおり喫煙所を3カ所設置している。 ①中野駅北口東西連絡路下喫煙所 ②中野駅北口加熱式たばこ専用喫煙所 ③トレーラーハウス型喫煙所(中野四季の森公園) このうち、②の喫煙所では「紙たばこ」は喫煙できないこととしている。 なお、①及び③については「紙たばこ」も喫煙できることとしており、現段階において喫煙所内に「紙たばこ」と「電子たばこ」の喫煙できるスペースを分離することは難しいと考えている。
12月20日	地籍調査技術専用員の仕事を職員が同行して技術を身に付けてほしい	地籍調査は平成19年度から実施しており、職員もその業務知識を有している。地籍調査技術専門員は、職員と協働して事業完了期間を短縮させるために配置するものであるが、地籍調査技術専門員が持つノウハウについても吸収し、職員のさらなる技術力向上も努めたい。
12月20日	小学校から性的マイノリティについて教育を学べるようにしてほしい	包括的な性教育については、区立幼稚園、小学校、中学校で、発達の段階や様々な指導場面を想定した性教育の年間指導計画を作成し、計画的に指導を行っている。今後も、子どもたちの発達の段階を考慮し、国や都の方針に基づき、包括的な性教育を実施していくことは重要であると考えている。
12月20日	必要最小限の経費で区長車の運用をしてほしい	現行の区長車の運用方法を変更し、区長等が使用できる庁有車を導入する。

開催月日	区民の意見(趣旨)	反映状況(区の考え方)
12月20日	セーフティネット登録住宅に関わらず、区の住宅政策の方向性を区民に示してほしい。 また、他区のように住宅費扶助にも力をいれてほしい。	区は令和4年に、今後の住宅・住環境整備の基本的方向を定め、地域特性に応じた具体的な住宅施策の展開を図るための行政計画として、「第4次 中野区住宅マスタープラン」を策定し、公表している。 また、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への入居支援策として、居住支援協議会において、きめ細かな相談支援体制の推進や入居支援事業に取り組んでいるため、家賃助成を行う予定はない。
12月20日	区役所の駐輪場の出口がせまく、使いにくい。	発券機が設置されているゲート側出入口は、自転車が出入りするための出入口となっている。自転車駐車後は北玄関側の出入口をご利用いただきたい。
12月20日	中杉通りの歩道が狭く、傾斜があるためベビーカーの使用に危険が伴う。 車道の舗装のみでなく、歩道の改善も行ってほしい。	道路管理者である東京都へいただいた意見を伝えるとともに、補助第133号線の整備を契機として、ベビーカーを含む歩行者や自転車が安全で快適に利用できるよう改善に向けて関係機関と検討していく。
12月20日	中野の南北を通っている鉄道路線とのアクセスの利便性の向上を図って欲しい	区内の公共交通による南北移動は、主に路線バスが担っている。運転者不足等、社会的な背景を考慮しつつ、路線バスネットワークの最適化について運行事業者との調整に努めていく。